

【講演要旨】

新学習指導要領「生きる力」に対応するための歴史地震学習のあり方

木村玲欧(兵庫県立大学 環境人間学部)・田村圭子(新潟大学 危機管理室)・
井ノ口宗成(新潟大学 災害・復興科学研究所)・藤田哲也(日本画家)

How we offer unique classes of learning historical Earthquake that follow the new educational guidelines “physical and intellectual ability” set by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology.

KIMURA, Reo (University of Hyogo), TAMURA, Keiko (Niigata University)
INOGUCHI, Munenari (Niigata University) and FUJITA, Tetsuya (Japanese-style painter)

§ 1. はじめに

発表者は「地域の歴史災害」をキーワードに、地域で過去に何が起こったのかを子どもたちが学習することで「子どもたちの防災マインド」を育て、子どもたち自身が「地域の特徴を反映した具体的な行動・対策」を考え、「その成果を地域へ還元」するための防災教育プログラムと教材を開発してきた。

これは文部科学省・新学習指導要領「生きる力」(小学校では 2011 年度、中学校では 2012 年度から完全実施)における「防災学習」の見直しにも対応している。小学校の社会科では、3、4 年生で「関係機関は地域の人々と協力して、災害や事故の防止に努めていること」という一文が入るとともに、5 年生では、環境の保全という目標に加えて、「自然災害の防止の重要性」も新たに加えられることになった。文部科学省ホームページ「小・中学校新学習指導要領Q&A(教師向け)」には、新しい単元の構成や教材の開発が必要となりますので注意が必要です、と明記されている。

§ 2. 教材とプログラムの概要

教材については、被災者の被災体験談を基礎に作成した。これは子どもたちの学習の特徴である「無関心、気づき、正しい理解、災害時の的確な判断と行動」という 4 段階による学習過程を教材に反映させるためである。子どもの学習にとって肝要なのが「気づき」であり、子どもたちが「対象に対して興味・関心、好奇心、不思議さ、疑問が湧き上がる」ことである。子どもが気づきを持ったことを指導者側が把握することによって初めて指導計画が展開し、子どもたちの気づきを受けて提供されたときに教材や資料が初めて有効になる。子どもにとって気づきを誘発しやすい事象として、伝記に代表されるような「1 人の人間が、時間経過に伴ってどのようなことを考えて行動し、どう変化していくか」という人間に焦点を当てた物語があげられる。そのため、子どもの気づきを誘発するための教材として、自然現象の原理・法則についての解説は二次的なものとし、時間経過に伴う被災者の実際の被災体験を材料として映像資料もあわせて教材を作成した。

プログラムについては「多人数の児童に対する 1~2 時間で学ぶことができるプログラム」を提案することで、学校の実情に即したプログラムが選択できるように配慮した。

§ 3. 様々な災害における展開

本研究ははじめ、1944 年東南海地震、1945 年三河地震を対象として愛知県・三重県で行ったが、1946 年南海地震を対象に和歌山県で、1964 年新潟地震を対象に新潟県でも活動を広げている。特に、2004 年新潟県中越地震、2007 年新潟県中越沖地震を経験した新潟県で地震災害・防災学習を学校で展開するために、下越地方における歴史災害である 1964 年新潟地震を対象に教材を作成する試みをはじめている。本発表では、この取り組みの最新状況についても紹介する。

0101 「いのちを守る大切さ」を学ぼう 指導案(1時間バージョン)

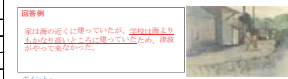
■基礎データ	
タイトル	「いのちを守る大切さ」を学ぼう
ねらい	1. 小学5年生・中学3年生(奥平千右衛門)の経験の地震体験談を映像教材によって知り、地震災害時に子どもがどのような心理・行動状況におかれるのかを知る 2. 地震が人間・社会に与える被害・影響と、復旧・復興への苦難を知り「地震災害に対するイメージ」を養う 3. 地震によって「いのち」がどのように失われる事象を知り、その「いのちを守る大切さ」について考える
対象学年	小学校5年生以上
教科等	総合的学習、社会(地域の歴史)、国語(体験談を聞く)、道徳(いのちの尊さを考える)
学習形態	個人(ワークシート)→全員(映像視聴)→個人(ワークシート)→全員
準備	映像教材(0101 鈴木敏夫・赤木英代)、DVD再生装置(プレーヤー、テレビ等) ワークシート(0101-01)、授業補助資料(0101-02、01010-3、0101-04)

■学習の流れ	
1 導入(5分)	ワークシート(0101-01)を配布 地震から想像されるものをあげる 「みなさんは、地震という言葉を聞いて、何を思い浮かべますか、思い浮かぶことについて、ワークシートに書いてみましょう」 一人ひとり1人1人の地震に対するイメージを共有させる →画像は禁止する。あまりイメージが思い浮かばない場合は早に切り上げる →このイメージは映像視聴後のイメージとの比較・評価に使用する
2 展開1(2.5分)	被災者体験談(赤木英代さん・鈴木敏夫さん)を流す 「これから安城に住む皆さんの経験の地震体験談を流します。みなさんは、今から66年以上前の1944年と1945年に2つの大きな地震が起きたことを知っていますか(授業補助資料0101-02)をもとに説明」 「体験談を聴いているあいだ、大切だと思ったことは、ワークシートの②にメモをとってください。ただし周りの人と相談しないでいいです」 →映像を流す(約21分)(授業補助資料0101-03)
3 展開2(1.0分)	大切な人を地震から守るためには何が必要かをあげる(5分) 「映像を見て、家族や友達など大切な人のいのちを地震から守るためには、どのようなことが必要だと思いますか、あなたの意見をワークシートの③に書いてください」

1 被災者の体験談を復習しましょう。

三浦 薫さんは、地震でどんな体験をしたのでしょうか。絵をヒントにして、思い出してください。

1) 外で遊んでいたときに地震が起きました。地震のあと、薫さんと薫は、自分の家ではよく学校に避難したため、命が助かりました。なぜ、学校に避難することで命が助かったのでしょうか。



ポイント
1. 被災者の体験談「震災体験談」を視聴することを確認する
2. 津波によって、海辺の家はどのように変わってしまったのでしょうか。

回答例
津波によって、海は高くなり、壊された家を飲み込んだ(押し流した)のが印象に残っています。津波が来たとき、お風呂に避難したことが助かりました。津波が来たとき、お風呂に避難したことが助かりました。



図 作成した指導案・教材